

3 特殊分類別（財別）鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

1 最終需要財

平成 19 年の県内最終需要財の生産指数は112.2で、対前年比10.3%上昇しました。（表 12）

また、在庫指数の年平均は127.7で、対前年比24.5%上昇しました。（表 14）

1-1 投資財

平成 19 年の県内投資財の生産指数は124.3で、対前年比19.5%上昇しました。（表 12）

また、在庫指数の年平均は115.0で、対前年比5.8%上昇しました。（表 14）

1-1-1 資本財

平成 19 年の県内資本財の生産指数は146.8で、対前年比42.8%上昇しました。（表 12）

四半期別にみますと、1期は113.3（対前期比5.8%増）、2期は160.7（同41.8%増）、3期は163.0（同1.4%増）、4期は154.1（同5.5%減）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は120.1で、対前年比10.1%上昇しました。（表 14）

四半期別にみますと、1期は115.0（対前期比0.5%増）、2期は119.8（同4.2%増）、3期は122.3（同2.1%増）、4期は123.9（同1.3%増）となります。（表 18）

1-1-2 建設財

平成 19 年の県内建設財の生産指数は100.7で、対前年比4.3%低下しました。（表 12）

四半期別にみますと、1期は102.1（対前期比0.3%減）、2期は106.0（同3.8%増）、3期は98.7（同6.9%減）、4期は96.3（同2.4%減）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は105.3で、対前年比2.3%低下しました。（表 14）

四半期別にみますと、1期は104.9（対前期比0.9%減）、2期は104.2（同0.7%減）、3期は104.8（同0.6%増）、4期は107.1（同2.2%増）となります。（表 18）

1-2 消費財

平成 19 年の県内消費財の生産指数は104.9で、対前年比4.5%上昇しました。（表 12）

また、在庫指数の年平均は141.2で、対前年比46.8%上昇しました。（表 14）

1-2-1 耐久消費財

平成 19 年の県内耐久消費財の生産指数は103.0で、対前年比0.9%上昇しました。（表 12）

四半期別にみますと、1期は105.1（対前期比5.7%減）、2期は103.0（同2.0%減）、3期は98.5（同4.4%減）、4期は106.0（同7.6%増）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は150.5で、対前年比60.6%上昇しました。（表 14）

四半期別にみますと、1期は130.8（対前期比27.2%増）、2期は162.2（同24.0%増）、3期は161.5（同0.4%減）、4期は148.6（同8.0%減）となります。（表 18）

1-2-2 非耐久消費財

平成 19 年の県内非耐久消費財の生産指数は109.5で、対前年比13.8%上昇しました。（表 12）
四半期別にみますと、1 期は108.1（対前期比18.0%増）、2 期は109.4（同1.2%増）、3 期は109.5（同0.1%増）、4 期は111.0（同1.4%増）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は102.3で、対前年比3.9%低下しました。（表 14）

四半期別にみますと、1 期は90.8（対前期比16.1%減）、2 期は97.8（同7.7%増）、3 期は102.9（同5.2%増）、4 期は115.9（同 12.6%増）となります。（表 18）

2 生産財

平成 19 年の県内生産財の生産指数は113.9で、対前年比4.9%上昇しました。（表 12）

また、在庫指数の年平均は120.4で、対前年比16.8%上昇しました。（表 14）

2-1 鉱工業用生産財

平成 19 年の県内鉱工業用生産財の生産指数は114.4で、対前年比5.1%上昇しました。（表 12）
四半期別にみますと、1 期は110.0（対前期比1.1%減）、2 期は112.0（同1.8%増）、3 期は115.1（同2.8%増）、4 期は120.2（同4.4%増）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は121.6で、対前年比18.6%上昇しました。（表 14）

四半期別にみますと、1 期は120.9（対前期比8.5%増）、2 期は117.3（同3.0%減）、3 期は126.3（同7.7%増）、4 期は121.7（同 3.6%減）となります。（表 18）

2-2 その他用生産財

平成 19 年の県内その他用生産財の生産指数は104.0で、対前年比3.7%上昇しました。（表 12）
四半期別にみますと、1 期は102.8（対前期比1.6%増）、2 期は102.8（同0.0%）、3 期は106.6（同3.7%増）、4 期は103.8（同2.6%減）となります。（表 16）

また、在庫指数の年平均は104.9で、対前年比5.2%低下しました。（表 14）

四半期別にみますと、1 期は111.1（対前期比1.7%増）、2 期は107.6（同3.2%減）、3 期は101.3（同5.9%減）、4 期は99.5（同 1.8%減）となります。（表 18）



「季節調整」 とは？

指数には「原指数」と「季節調整済指数」の2種類がある事にお気づきでしょうか？

例年、年末年始のある12月、1月、ゴールデンウィークのある4、5月、お盆休みのある8月は勤務日数が少ない為、生産活動が低下するといわれていますが、本当にそれを生産水準の低下と考えて良いのでしょうか？

鉱工業の生産は、季節的な要因や社会的慣習等により1年を周期として変動するので、前月や前四半期との比較を行なう場合には、そのような季節要因をとり除く必要があります。これを「季節調整」といいます。

3 特殊分類別生産指数・生産者製品在庫指数の推移

